

ログハウス製作へ第1歩

「ウッディ阿賀の会」は1998年10月25日の日曜日、東蒲三川村上戸谷渡長谷地内の山林（星野求行氏所有）で杉の間伐を行った。この日集まったのは、最近加入した新会員たち約25人。午前10時現地に集合して世話役らの指導を受けて間伐する木に目印をつける作業に入った。

山林内は明け方まで残った雨で多少足元が滑ったものの、一同、遠足の子供たちのように大はしゃぎ、1時間足らずで予定量を終わった。早目の昼食をとった後は、思い思いにキノコを探したり、木の実を拾ったりハイキング気分だった。

午後は本職の林務員の手ほどきで、いよいよチェーンソーでの伐採作業。まずモーターのかけ方からはじまり、倒れた木を実際に切るテストを。立ち木の作業に移ってからは教えるほうも真剣、「木の倒れる方向には近付かない」など念入りの注意がとんだ。

最初はおっかなびっくり及び腰だったが、慣れるにつれてやる気満々。「もう1本、もう1本」と切って行き、立ち枯れの木も含めて30本以上切り倒した。

夫唱婦随？組も入れて女性も5人ほど参加、男どものしりをたたいて“戦力アップ”に貢献した。



若い女性も果敢にチェーンソーに挑む



← お話
握弾
りんが
だう
昼
ま食
い



→ ち
木
エ
の
ン
根
ソ
元
に
を
立

「ウッディ阿賀の会」説明会

1998年10月21日

新潟テルサ

三川村での山林実習に先立つ4日前の21日夜、「ウッディ阿賀の会」とログハウス建設計画の説明会があった。約40人が集まり、同会の世話人・事務局（新潟林業事務所内）から会の性格・趣旨を聞いた。引き続いて活動計画としてログハウス製作の内容説明が行われ、質疑応答が交わされた。

最後に事務局から入会の呼びかけと手続き説明があったが、即刻その場で入会する人も多く出て、自然や森への関心の高さを示した。

「ウッディ阿賀の会」の会則及び活動方針

前身母体である新潟・津川両林業青年会議所の設立趣旨と活動目的を継承し、より自由な雰囲気の中で、参加者の自主的な意思を尊重して活動を行う。

〔会の名称〕新潟地域林業青年会議所の解散・再編成に伴い、会の名称を「ウッディ阿賀の会」とする。

〔活動の目的〕林業青年会議所の趣旨を継承し、自然環境「里山」の保全と木の文化の研究・発展に寄与することを目的とする。

〔規約〕特に定めない。

〔会員〕特定せず、会の目的・活動に賛同する者を参加者として、その都度広く一般から募集する。

〔会費〕特に徴収しない。必要に応じて参加者の参加費・補助金・寄付金をもって会の経費とする。

〔役員〕特に定めない。必要により世話役を置く。当面の世話役として、代表世話役・込田幸吉氏、世話役・星野求行氏、同・宮路和則氏に委嘱する。

〔会議〕会議は必要に応じて開催する。

〔活動予定〕森林の見学会、ログハウスの建築、山野草・山菜等野研究、炭焼き体験、木材の学習、山村の生活習慣研究など。

〔その他〕「楢の会」（旧津川地域林業青年会議所）をはじめ他団体との情報交換を行う。

〔事務局〕事務局は当面新潟林業事務所に置き、主に参加者への連絡を行う。